

未来生活 now プロジェクト 2013 年度 SEED PLAN 評価

長期目標

経済の持続可能性を目的とする「グリーン・エコノミー」と、生命の持続可能性を目的とする「ライフ・エコノミー」に対話と調和を促すことで、「経済成長中心」から「生命のための経済」へ、モノ（資源）・カネ（金融）・情報（メディア）のしくみを変えます。そして、化石燃料を盲目的に使用し成長を過剰に追及するような経済である「ブラウン・エコノミー」に節度を求め、地産地消を基本とする有機農業が目指す、食・エネルギー・医療の地域での自給の在り方としての「ライフ・エコノミー」の主流化を実現します。

短期目標

目標	・「グリーン・エコノミー」のプレイヤーである企業/団体30以上と、「ライフ・エコノミー」のプレイヤーである農家/団体30以上とのネットワークを形成し、対話と連携を促進することで「東京における生命を大事にする地域自給社会」を主流化します。そのために、首都圏（特に新宿エリア）のCSR推進企業（飲食・流通業、金融業、メディア情報通信業（メディア）、資源・エネルギー関連業等）と、首都圏の有機生産者の協働による、新宿エリアでの勉強会/物販企画を継続的に実施します。
達成度	68%
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・パタゴニア・中央労働金庫・オルタナなどのグリーンな企業と、全国有機農業推進協議会・東京コミュニティパワーバンク・アースデイ東京などライフな団体との連携を深め、「東京だから出来る有機のまちづくり」というコンテンツとして結実させ、アースデイ東京 2014 において、「ワカモノ×ミライ」という合同出展を企画するに至りました。 ・有志としての位置づけにはなりませんが、「福島発・持続可能な社会への提言」というテーマで、新宿を中心とするネットワークを構築できました。新宿区における有機農業推進・福島復興支援をテーマとする活動の認知度が向上しました。 ・「Post2015/SDGs」をテーマに勉強会を2度開催し、NGOのネットワークのユースセクションとして責任ある立場を担う事が出来ました。オルタナティブとして「持続可能地域目標」のドラフトを作成する事が出来ました。 ・「東京における生命を大事にする地域自給社会」という提言を明文化する所まで至らず、次年度に持ち越しとなりました。

実行手段

目標	1) 連携・協働の場の設定（勉強会・シンポジウム・物販・その他出展） 「東京における生命を大事にする地域自給社会」を広める勉強会・物販企画を6回以上実施します。
達成度	90%
成果	アースデイ東京 2013、No More Fuck`in Nukes、Fuji Rock Festival、ふくしまオーガニックフェスタの4つのイベントでブース出展しました。8度のフォーラム/セミナー、2度の主催ツアー合宿、その他合同あるいは他団体と協力してのトレーニング/セミナーを3度実施し、合計700名以上の参加を得ました。
目標	2) 人を巻き込む活動（ツール開発・啓発・メンバー募集） ・ウェブ/アプリ、冊子/パネル等を制作し、メンバー募集と啓発のためのブース出展を、6回実施します。
達成度	65%
成果	2012年12月に制作した冊子「エコライフからミライフへ」をパネル化し、引き続き冊子を1,000部配布しました。ダウンロード版は2014年度に持ち越しました。
目標	3) 「ライフ・エコノミー」主流化のための提言活動 ・東京都/新宿区に対し、有機農業推進に関する政策提言を行います。 ・12月に開催されるエコプロダクツ展において、ASJチーム連携に基づくブース展示、フォーラム企画を統合的に展開し、参加企業およびメディアに対し、ASJの提言を発信します。
達成度	50%
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「東京における生命を大事にする地域自給社会」という提言を明文化する所まで至らず、次年度に持ち越しとなりました。 ・活動資金を十分獲得できず、エコプロダクツ展でのブース展示、フォーラム企画は断念し、メンバーが参加し、資料をもって企業ブースを回るにとどまりました。代わりにアースデイ東京 2014に合わせ、横断企画「ワカモノ×ミライ」を実施しました。 ・「Post2015/SDGs」をテーマに勉強会を2度開催し、NGOのネットワークのユースセクションとして責任ある立場を担う事が出来ました。オルタナティブとして「持続可能地域目標」のドラフトを作成する事が出来ました。

年間活動

結果

- 4月：アースデイ東京 2013 に出展
- 5月：有志で「東京有機マルシェ・すずめの未来市」開始(以降、毎月開催※)
西武信金物産展に出展
- 6月：第5回東京アフリカ開発会議(TICAD5)にメンバーが参加
- 7月：No More Fuck`in Nuke、Fuji Rock Festival・NGO ビレッジに出展
地球環境パートナーシッププラザで展示・セミナー
- 8月：新宿 NPO 協働推進センターまつりで出展・小フォーラム実施
- 9月：有志で会津の有機農家・浅見彰宏さんを囲む会
- 10月：丸の内さえずり館で展示・セミナー(2回)、持続可能開発目標(SDGs)セミナー
- 11月：活動合宿、歌舞伎町農山村ふれあい市場、ふくしまオーガニックフェスタに有志で出展
- 12月：A SEED DAY でSDGs セッションを担当
アースデイ東京 2014 に向け「ワカモノ×ミライ」を始動
- 1月：エンカルケータイ実行委「タックスヘブン」勉強会
- 3月：「ワカモノ×ミライ」セミナー、SDGs/Post2015 NGO 世話団体会ユースセクションを立ち上げ
※5月から11月まで、毎月1回、有志で「東京有機マルシェ・すずめの未来市」を開催。埼玉県小川町や福島県二本松市の有機農家の農産物を販売し、交流会を開催。

総括

設立2年目となる2013年度の「未来生活 now」プロジェクトでは、A SEED JAPAN の過去の国際会議における「経済をエコロジーに」する提言キャンペーンを踏襲し、グリーンな経済のプレイヤーである CSR 企業に対し、地域自給社会へのシフトを提言するキャンペーンをめざし、横断的な活動を展開しました。「今すぐ廃炉・今こそ有機」をキャッチコピーに、東日本大震災と放射能汚染による国内情勢を踏まえつつ、「東京における生命を大事にする地域自給社会づくりの主流化」に共感する青年・NGO・CSR 企業・農家とのネットワークを深めました。また A SEED JAPAN が2000年代に掲げてきた「買う・働く・貯金するエコライフ」を進化させた「未来の生命のためのモノ・カネ・情報のミライフ」による啓発活動も2年目となり、認知度を向上させました。

同時に A SEED JAPAN の組織改革にもチームを挙げて積極的に取り組みました。新宿エリアにおける地域展開、アースデイ東京 2014 でのチーム横断・ユース団体横断による「ワカモノ×ミライ」エリア、NGO とのネットワークを活かした「エンカルケータイ実行委」、原子力市民委員会ユースとの連携など、A SEED JAPAN らしい活動を展開できた1年でした。設立3年目となる2014年度は、これらの「新たな活動の芽」を育て、「東京における生命を大事にする地域自給社会づくりの主流化」をテーマとする提言・啓発キャンペーンの立ち上げに挑みます。

未来生活 now プロジェクト 2014 年度 SEED PLAN

長期目標：誰もが「ミライフ=未来の生命(ライフ)につながる生活(ライフ)」を生きることができる世界へ

- 1) 日本の青年と力を合わせて、世界の課題先進国・原子力災害被災国である日本の地域社会を、「生命を大事にする責任ある地域自給社会」へと転換します。
- 2) 東京の青年とグリーンな企業と NGO が力を合わせて、有機農業をはじめとする環境保全型農業、地域に根差した再生可能エネルギー、有機的な人のつながりから生まれる健康で安心な地域づくりの実践を進め、東京における「生命を大事にする責任ある自給社会づくり」を一般化します。
- 3) 上記の提言と実践を通して、国際社会が「持続可能地域目標 (Sustainable Community Goals)」を定め、過剰な農薬・化学肥料・化石燃料・紛争鉱物・原子力発電・遺伝子組み換え等のリスク規制を強化する仕組みを創造します。

短期目標(2014-2015)：「農と言える日本人へ！君の自立・ぼくの自立がふるさとの自立」

- 1) 「生命を大事にする責任ある自給社会」を創造する東京、福島、青森、およびその他の地域の青年をネットワークし、青年が地域の現場にアクセスできる仕組み(ツアー)を作ります。
- 2) 「東京における生命を大事にする地域自給社会づくり」に賛同する青年、企業、NGO をネットワークし、新宿を中心に「ミライフ=未来の生命につながる生活」を始めるための場(農家市)を創ります。
- 3) 2014年9月に予定している国連総会での「国連持続可能開発目標(SDGs/Post2015)」の議論において、東日本大震災の教訓を踏まえた「持続可能地域目標 (Sustainable Community Goals)」を提言し、賛同する青年・企業・NGO を募り、日本政府に「生命を大事にする責任ある自給社会」への転換を働きかけます。

実行手段

- 1) 連携・協働の場の設定（農家市・勉強会・シンポジウム・物販・その他出展）
 - ・「東京における生命を大事にする地域自給社会」を広める勉強会／物販企画を実施します。
- 2) 人を巻き込む（ツール開発・啓発・メンバー募集）
 - ・ミライの趣旨を裾野広く伝えるためのウェブ、アプリ、冊子、パネル等を制作し、ブース出展を通して、メンバー募集と啓発を行います。
（アースデイ東京 2015、アースデイマーケット、土と平和の祭典、エコプロダクツ 2015 ほか）
- 3) 提言活動
 - ・Post2015/SDGs の国際交渉を追いつつ、2015 年 3 月の世界防災会議 in 仙台のタイミングを活かして日本政府/東京都/新宿区に対し、「生命を大事にする地域自給社会づくり」の政策提言を行います。
 - ・チーム連携や青年団体横断でのブース展示、フォーラム企画を統合的に展開し、参加企業およびメディアに対し、提言を発信します。金融機関やメーカー企業に対し公開質問を行います。

年間活動

- 4 月 アースデイ東京 2014 に出展、有志で毎月 11 日に復興の集い「結イレブン」を定期開催
- 5 月 「ワカモノ×ミライなエネルギー」セミナーを実施、六ヶ所村スタディツアー「地域と都市の未来ある選択と連帯を探る旅」を実施
- 6 月 SDGs/Post2015 ユース提言勉強会を実施、有志で農山村ふれあい市場に出展、六ヶ所村ツアー報告会を実施、アースデイマーケットにアクションブース出展（以降、毎月実施）
- 7 月 有志で福島農家市スタディツアーを実施、ソーシャルファイナンスセミナーを実施
- 8 月 提言アクション勉強会&合宿
- 9 月 ASJ 法人化フォーラムで企画担当、国連総会・SDGs/Post2015 会議で提言アクション（ワカモノ×ミライ企画）
- 10 月 東京・六ヶ所・福島のユースのためのツアー、土と平和の祭典に出展、ソーシャルファイナンスセミナーを実施、ワカモノ×ミライな地域目標シンポジウム
- 11 月 小川町オーガニックフェスタに出展、ASJ 法人化フォーラム/A SEED Day に企画参加、PARC 自由学校「口座を変えれば世界が変わる」連続講座(3回)に協力
- 12 月 バンクワイザージャパン発足イベントに協力、エコプロダクツ 2015 に出展（ワカモノ×ミライ企画）
- 2 月 世界防災会議 in 仙台カウンターイベント開催（ワカモノ×ミライ企画）
- 3 月 ASJ 改革合宿で企画協力
- 4 月 アースデイ東京 2015 に出展

エネルギーとまちづくりプロジェクト 2014年度 SEED PLAN

長期目標（2030年までに達成するミッション）

化石燃料由来のエネルギー等の利用について改めて見直し、再生可能なエネルギーを誰でも選択し、利用できる持続可能な社会を目指します。そして、市民として、身近な市区町村単位での小規模な地域コミュニティの自治に関わるきっかけが見えやすい、参加型社会を創っていきます。

短期目標

- ・日本各地で生まれている地域分散型のエネルギー自給の取り組みについてワカモノに普及啓発を行い、地域でエネルギーの自給に取り組むワカモノを増やします。
- ・首都圏において市民発電所の取り組みをしている団体とこれからの自然エネルギー普及について話し合う場をつくります。
- ・地域・市民主導での自然エネルギー普及を促進するために、地域の制度および政府の政策に働きかけます。

実行手段

- ・自然エネルギー（発電所）やエネルギーの消費量を抜本的に見直す省エネ（節電所）への取り組みに関するセミナーやイベントを3回以上開催します。
- ・首都圏における市民発電所の取り組みをしている団体や自治体の方にインタビューを行い、その記事をHP等で年5回以上発信します。
- ・地域・市民主導で、地域の特徴に沿ったあらゆる自然エネルギー普及を促進する固定価格買取制度（FIT制度）を実現するべく政策提言を行い仕組みに働きかけます。

エシカルメタルプロジェクト 2014年度 SEED PLAN

長期目標

環境やコミュニティ・人々を傷つける鉱物採掘をストップさせ、エシカルな資源利用が行われる社会を目指します。

短期目標

- ・金属を使用する製品製造に関わる企業における、調達を通じた採掘時の社会・環境配慮への取り組みの調査および意見交換を実施し、より根本的な取り組みを促します。
- ・エシカルケータイキャンペーンの実行委員会メンバーとしてエシカルケータイキャンペーンを推進し、採掘の問題の認知を広めます。

実行手段

- ・調達を通じた採掘時の社会・環境配慮への取り組みに関する公開質問状の送付・公開を、エシカルケータイキャンペーンと協力して行います。
- ・公開質問状回答企業に対して、5社以上と個別の意見交換を行い、今後の方向性と提言内容を検討します。
- ・鉱山開発の事例に関する勉強会・セミナーを、この問題に取り組むNGOと協力して2回以上実施します。
- ・『「エシカル」なものを使う』ことを市民・企業に働きかけるイベントをエシカルケータイキャンペーンと協力して行います。（2月）

水源 WATCH！プロジェクト 2013 年度 SEED PLAN 評価

長期目標

企業、行政、消費者、学生、NPO、NGOを含む市民が水源枯渇の問題と市民各々にとって実践的な解決方法を認知し、実行していて、かつ協働して地下水源が持続的に利用され、健全に循環されている状態にします。

短期目標

目標	水源地で起きている過剰取水などの問題や将来起こり得る問題を市民に対して広く伝えます。
達成度	60%
成果	・8月3・4日に代々木公園で開催された OCEAN PEOPLES 2013(来場者:55,000 名)、および 12 月 11～13 日に東京ビッグサイトで開催されたエコプロダクツ 2013(来場者:169,076 名)にて、海や川の「流域環境保全」に関わる6団体(NPO 法人ワールドオーシャンズデイ、コーラル・ネットワーク、公益財団法人 WWF ジャパン、公益財団法人日本自然保護協会、アイサーチ・ジャパン、特定非営利活動法人 荒川クリーンエイト・フォーラム)と共にブース出展を行いました。結果、海や森との循環も含めたより広い視点で、来場者に水源地が直面している問題について伝えることができました。 * NPO 法人ワールドオーシャンズデイが主催する『環境イベントを活用した計画・実践・評価の PDCA サイクル体験による NPO の組織基盤強化と連携体制構築』プログラムに参加しました。
目標	水保全の新たな仕組みを作り出し、世の中に広めていきます。
達成度	0%
成果	チャリティーベンダー(※)の設置に関しては、実施に向けた活動ができませんでした。 (※チャリティーベンダー・・・自販機で売られている飲料水の価格を通常よりも数十円高く設定し、その差分を水源保護活動に寄付する仕組み)

年間活動

結果	2013 年8月 :OCEAN PEOPLES 2013 に出展(※) 2013 年 11 月 :ソリューション会議に参加(※) 2013 年 12 月 :エコプロダクツ 2013 に出展(※) 2014 年1月 :フィードバック会議に参加(※) ※NPO 法人ワールドオーシャンズデイが主催した「環境イベントを活用した NPO のスキルアップ トレーニングとネットワーク構築プログラム」の一環として参加。他参加団体は、荒川クリーンエイト・フォーラム、Clear Water Project、コーラル・ネットワーク、日本自然保護協会。 2014 年3月 :プロジェクトを解散
----	--

総括

今年度ももちまして、水源 WATCH！プロジェクトは解散いたします。

2010 年 3 月にプロジェクトを立ち上げてからの 4 年間、「私たちの日常生活、農業や工業、そして生態系にとって必要不可欠な水を育む水源を次世代にわたって管理・保護し続けていくための、統合的な制度作りや市民参加型の管理体制の実現を目指す」という目標のもと、啓発および提言活動を行って参りました。

啓発活動としては、トークイベント・セミナーを 6 回、音楽フェスティバル等でのブース出展を 7 回、そしてフォーラムを 1 回、開催することができました。水と私たちとのつながりを知ってもらい、身近な水問題について考え行動してもらう機会をつくることができました。

提言活動としては、清涼飲料水を製造・販売している企業 48 社に対して、各取水源における地下水取水に関する公開質問状を送付し、13 社から回答を得ることができました。公開質問状の回答は、WEB での掲載およびブース出展を通して回答結果を公開しました。セミナーという場を通して企業、市民、NGO、行政の方たちとみんなの水をどのように守っていくかについてディスカッションを行うことができました。

私たちが活動を続けてきた背景には、つねに、プロジェクト立ち上げのきっかけでもある山梨県北杜市へのスタディツアーがありました。現地で目の当たりにした、住民の井戸水が汚濁・枯渇するという問題、そして取水を行う企業と住民の間での情報共有・対話が十分に行われていないという現状は、忘れることができません。

プロジェクトは解散しますが、日本で暮らす1人の市民として、これからも日頃の水利用に意識を巡らせ、「水はだれのものか」という問いに向き合い、社会に働きかけていきたいと思えます。

4 年間、私たちが活動を続けてこられたのは、みなさまから多大なるご支援・ご協力のおかげです。この場を借りて御礼申し上げます。本当に、ありがとうございました。

水源 WATCH！プロジェクト メンバー一同